

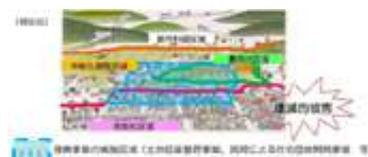
●【話題を追って3】高知市事前復興まちづくり計画

# 高知市「事前復興計画」 安全安心なまちの再生

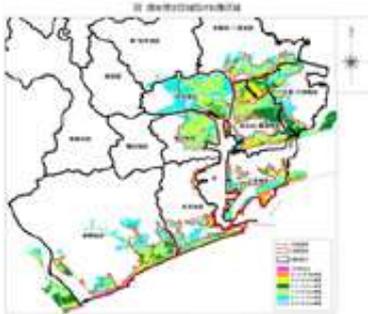
## 安全安心なまちの再生、住まいと暮らしの再建、なりわいの再生を基本理念に



昭和南海地震時の浸水状況と現在の様子。上写真：昭和南海地震(M8.0)発災翌日(昭和21年12月22日)地盤沈下:1.2m~1.3m]、下：現在の高知市(高知市資料より)  
(画像クリックで拡大表示/以下同様)



復興事業の実施区域(土地区画整理事業、民間による住宅団地開発事業等/高知市資料より)



浸水想定区域及び対象区域(高知市資料より)

高知県高知市は、想定される南海トラフ地震の発生で甚大な被害に見舞われるおそれがあり、被災後のまちの復興においては市行政内部及び関係機関との総合調整や地区住民との合意形成が求められるほか、多岐にわたる業務を的確かつスピード感を持って進める必要があることから、復興の事前対策として復興方針をあらかじめ決めておくことが重要と判断。東日本大震災では、復興計画の策定が遅れ、多くの住民が他地域へ転出したことから、高知県が2021年度に「高知県事前復興まちづくり計画策定指針」を策定したことを受け、高知市では「事前復興まちづくり計画」の策定を開始していた。

このほど、被災後のまちづくりの復興方針や体制・手順等を取りまとめた「高知市事前復興まちづくり計画復興基本方針」を策定し公表した。

### ○地震・津波の想定と影響

最大規模の南海トラフ地震(M9.1)で未耐震建物の倒壊や津波浸水による壊滅的な被害を想定——地震・津波対策：ハードとソフトの施策を組み合わせ「多重防御」を推進。高知海岸事業や三重防護事業を通じて、津波対策を強化。

○復興計画の対象期間：復興期間は約8年と設定。応急対策期と復旧・復興期を区分。

○住宅復興の具体的な取り組み：応急仮設住宅の整備や災害公営住宅の提供を計画。

○災害廃棄物処理の方針：仮置場の確保や廃棄物の処理・再生利用を計画。

○インフラ復旧の重要性：道路や上下水道の早期復旧を図り、耐震化を進める。

○教育・医療・福祉の復興：学校や医療施設の早期復旧。心のケアや生活支援を重視。

○商業・農業の復興戦略：仮設店舗の整備や商業施設の復興を進める。

○地域文化の継承と復興：地域特有の文化や歴史的建造物の保全を重視。

○事前復興計画の位置づけ：地域防災計画や復興方針と連携、効果的な復興をめざす。

○復興方針の基本理念：安全安心なまちの再生、住まいと暮らしの再建、なりわいの再生。

歴史・文化の保全と地域共生社会の実現をめざす

>>高知市：事前復興まちづくり計画復興基本方針

## BOSAI+ Topics



神田外語大学生が取材・制作し福島県に贈呈した日本語版「福島とともに」(左)と英語版「Together with Fukushima」

### ● 神田外語大 震災復興新聞『Together with Fukushima』日英版震災復興新聞と復興ビールを福島県に贈呈

神田外語グループ(東京都千代田区)では、東日本大震災・原子力災害から15年の節目にあたり、福島の復興と学生の学びを世界に発信する「震災復興発信プロジェクト」を展開している。「震災復興発信プロジェクト」は、2023年に福島県と包括連携協定を締結して以来、教育活動を通して福島との連携を進めようというもの。

その一環として、グローバル人材の育成をめざす神田外語大学・柴田真一ゼミの学生19名が、福島県浜通り地域での震災復興や新産業、特産品、地域振興など「福島の過去・現在・未来」を自らの目での取材、日英版の震災復興新聞『福島とともに(英題: "Together with Fukushima)』を完成させ、内堀雅雄・福島県知事への同紙の贈呈式を1月26日に県庁で開催した。今後、日英版震災復興新聞をもとに同学の海外提携校への発信を予定していて、福島の現状や取り組み、人びとの思いや挑戦を、学生の言葉で世界に伝えていく。また、贈呈式では震災復興発信プロジェクトの成果物の一つとして制作した震災復興ビール『綺麗ALE』も同時に贈呈した。

震災復興ビール『綺麗ALE』には、広野町産のバナナ(愛称『綺麗』)を使用。自然に恵まれた広野町の風景と震災からの復興への願いが込め、学生たちはその背景やストーリーにも注目した。『綺麗ALE』は、株式会社大鵬が運営するクラフトビール醸造所併設レストラン「HANEDA SKY BREWING」などでの提供・販売を予定。

>>神田外語大学：学生による日英版「震災復興新聞」— 福島の「今」を世界へ